



辛淑玉さんに聞く

聞き手 菅間正道 (自由の森学園教員)

シン スゴ

1959年東京生まれ。在日3世(韓国籍)人材育成コンサルタント
1985年人材育成会社「香料舎」を設立
[のりこえねっと(ハイトスピーチとレイシズムを乗り越える国際ネットワーク)]共同代表
2003年第15回多田瑤子反権力人権賞受賞
主な著書に『怒りの方法』『悪あがきのすすめ』(岩波新書)
『差別と日本人』(角川lone テーマ新書)
『せっちゃんのごちそう』(NHK出版)
『その一言が言えない、このニッポン』(七つ森書館)
他多数

バカヤロー！と言えぬ子ども、 闘える子どもを育てよう！

自己と他者の奪還を通じて社会の奪還を

インタビュー

●人から愛されるな、 自分で自分自身を愛せ

菅間 本誌『人間と教育』は1994年に創刊され、断続的に巻頭インタビューを掲載しています。各界から多彩な方々に登場願っているんですが、じつは辛さんは、唯一の2回目の登場となります。

辛 あら！ そうなの。
菅間 (前回インタビューが掲載された、2000年28号を見せて) 覚えていらつしゃいますか？ これなんですけど。タイトルは「男は降参しなさい」。

辛 アハハ！ 懐かしいなあ。かなり昔のやつね。
菅間 今回、どうしても辛さんに会ってお話を伺いたいと思ったのには、2つ理由があります。1つは、2014年春の都知事選で、宇都宮けんじ候補を応援する辛さんの映像をネットで観たことです。それはそれは鬼気迫る、圧倒的迫力の応援演説でした。また、この夏、辛さんの講演に出かけて、さらにいろいろ伺いたいなあと思いました。

その講演の冒頭、辛さんは笑顔でこうおっしゃっていました。「今週は3日完全徹夜、2日移動で合計3時間しか寝ていません。だから、もうフラフラです。頭真っ

白、何を喋るかわかりませんよ」って。それを聞いて、そんな状況がもし1年365日続いているとしたら、辛さん死んじゃうよ！ って思ったのですが。

辛 今は、夏ほどじゃありません。それがずーっと続いたら、本当、死んじゃうよ(笑)。基本的に一番睡眠をとるのは移動のときです。だから、今日も群馬で用事があったんだけど、行き帰りの電車の中では爆睡。

たぶん今、自分は病気だと思っんです。3・11以後被災地に通い始めて、「現実」に突っ込んでいますが、突っ込めば突っ込むほど眠れなくなるんです。被災から1年か1年半経ったときから、本当に眠れないんですね。

菅間 それまでは、すぐ寝られるほうだったんですか？
辛 うん。わりともう、布団に入ったらボタンキューって感じ。大体深夜2時ぐらいいまで仕事をしていますから。ただ、今言ったような状況になって睡眠導入剤を飲むようになったのね。それでなんとか眠りを確保したんだけど、忙し過ぎて睡眠導入剤を飲む時間がない(笑)。何時間でも起きていられるし、眠くならない。だから、たぶん身体の状態が悪いんだと思うの。起きていられる結果、仕事が爆発的にできるわけ。いや、夏は本当に大変だったなあ。今は、徹夜するのは1週間に1回ぐらいになったかな。なるべく寝るようにしてます